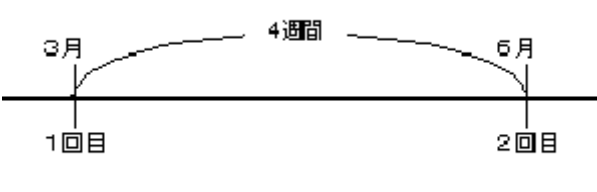
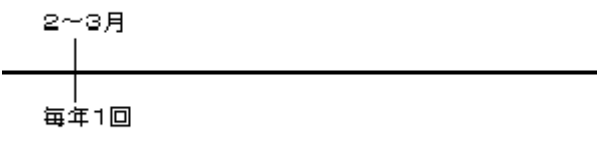
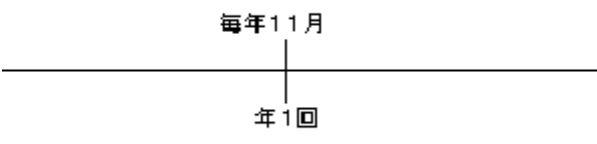
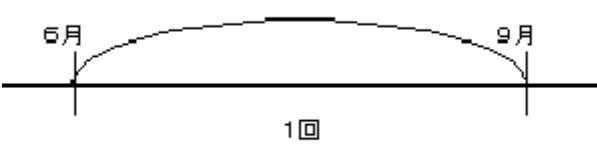
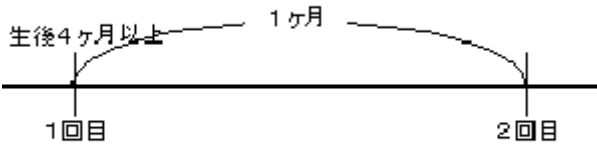
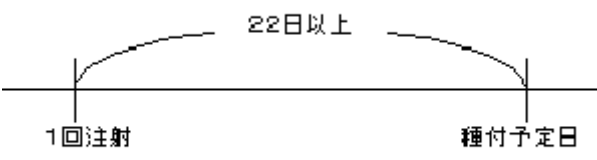
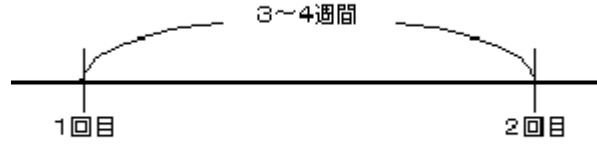


※ワクチン接種の当日は、必ず牛の体調観察を行いましょう。発熱などがある場合、かならず獣医師に相談しましょう。

| ワクチン名 | | 注射の方法 | ワクチンの正しい使い方 | | 川南町注射プログラム |
|---|-------------|--|--------------------------------------|--|--|
| 異常産三種混合 (アカバネ病、チ ユウザン病、アイ ノウイルス感染 症) | 不活化ワク チン | 発情中、分娩間 隙、分娩直後の注 射は避ける。 3mlを筋肉内に注 射する。 | 初めて注射す る牛は4週間 あけて2回 |  | 年2月～6月に1回ないし2回 (ウイルスを媒介する蚊の本格発 生前に抗体価を上げておかなけ ればなりません。) |
| | | | 前年に注射し た牛は年1回 |  | |
| 炭そ | 生ワクチン | 発情中、種付直 後、分娩間隙、分 娩直後の注射は 避ける。 0.2mlを首側又 は背側の皮下に 注射する。 | 年1回 |  | 毎年11月に1回 (特に、酪農では万一の場合の被 害が甚大なので、接種を推奨し ます。) |
| イバラキ病 | 生ワクチン | 発情中、種付直 後、分娩間隙、分 娩直後の注射は 避ける。 溶解溶液を加えて 溶解し、1mlを皮 下に注射する。 | 年1回 |  | 6月～9月に1回 (児湯畜連の7月～10月子牛セリ に出場する子牛は、接種しなけ れば出場ができません。) |
| 呼吸器五種混合 (牛伝染性鼻気 管炎、牛ウイル ス性下痢-粘膜 病、牛パライン フルエンザ、牛RS ウイルス感染 症、牛アデノウ イルス感染症混 合生ワクチン) | 生ワクチン | 3週間以内に種付 予定、種付直後、 妊娠中の注射は 避けること。 乾燥ワクチンに添 付の溶解溶液を 加えて溶解し、そ の2mlを筋肉内に 注射する。 | 4～5ヶ月齢 以上の牛は、 年1回 |  | 2ヶ月毎(子牛検査時)に接種 乳肥へは毎月接種日を設けてい ます。 |
| | | | 繁殖牛及び泌 乳牛では、種 付けの22日 前までに接種 |  | |
| 牛ヘモフィルス・ ソムナス感染症 | 不活化ワク チン | と畜場出荷前4ヶ 月間は注射を避 ける事。 2mlをでん部筋肉 内に注射する。 | |  | 2ヶ月毎(子牛検査時)に接種 |